

第 32 回大会主催 名誉会員講演会

2011 年 6 月 12 日（日）13:00-14:00 共通講義棟 2 号館 201 教室

「異文化間教育」研究という営為についての 2, 3 の考察 ～パラダイムと文化概念をめぐる～

箕浦康子（お茶の水女子大学名誉教授）

●講演要旨

「異文化間教育に関する研究」を規定する最も大きな枠組は、「研究」という営為をめぐるパラダイム変容、次に「異文化間」の問題を扱う際の文化概念をめぐる問題群、「教育」研究をめぐる問題群であり、学会発足から 30 年余、これらをめぐる研究方法論に大きな変化が起きている。学会の外のこうした地殻変動が研究活動にどう影響するかを考察する。

●略歴

京都大学卒業後、11 年間京都家庭裁判所調査官を務める。ヴィクトリア大学より M.A.（社会学）、カリフォルニア大学ロスアンゼルス校より Ph.D.(文化人類学)を授与される。1980 年より岡山大学文学部、東京大学教育学部、お茶の水女子大学で教鞭をとり 2004 年 3 月に定年退職。著書として、『子供の異文化体験—人格形成過程の心理人類学的研究』（思索社 1984、増補改訂版：新思索社 2003）、『文化のなかの子ども』（東大出版会 1990）、『地球市民を育てる教育』（岩波書店 1997）、『フィールドワークの技法と実際 I、II』（編著、ミネルヴァ書房 1999、2009）など。